



中澤 有美子さん(インタビュアー)

テレビ信州を退社後、フリーとして「JNNニュースバード」「ニュースの森」等のキャスターを務め、現在「TBSラジオ：安住紳一郎の日曜天国」等で活躍中。千葉県浦安市出身。



取締役頭取 佐久間 英利

昭和51年当行入行。市場営業部長、経営企画部長を歴任し、平成15年6月取締役就任、平成21年3月取締役頭取に就任。

## 地域に根差す 「リテール・ベストバンク」グループへ

### ダイバーシティ経営で 強い組織を

**中澤**：平成26年度は頭取にとって、どのような1年だったでしょうか。

**頭取**：昨年度はダイバーシティ、特に女性の活躍を推進する活動に力を入れたことが印象に残っています。内閣府がサポートする「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」に私が参加したこともあり、当行でも女性管理職登用に関する数値目標の公表やダイバーシティ推進部の設置、千葉工業大学と共同で運営する事業所内保育所「千葉工大ひまわり保育園」の開設な

どに取組みました。

**中澤**：私自身も働く女性の一人として、とても心強い取組みに感じます。

**頭取**：こうした取組みを地方銀行界全体に広げていくため、「輝く女性の活躍を加速する地銀頭取の会」の結成を呼び掛け、昨年11月に全国地方銀行協会の会員全64行の頭取が参加し、同会が発足しました。その取組みの一つとして、今年4月に「地銀人材バンク」をスタートさせました。これは結婚や配偶者の転勤等でやむなく転居により退職せざるを得ない地方銀行の職員に転居先近隣の地方銀行を紹介し、キャリア継続

を支援するものです。

**中澤**：非常に先進的で素晴らしい制度ですね。いま伺ったような女性の活用も含めて、ダイバーシティに積極的に取り組まれているねらいを教えてください。

**頭取**：ダイバーシティは「経営戦略」だと考えています。女性や外国人、障がい者など多様な人材が連携し、お互いの持ち味を最大限に発揮することで、環境の変化にスピーディーに対応できる創造的な組織を創りあげていくことが大切だと考えています。今年3月には、行内で「ダイバーシティフォーラム」を開催しました。この会場で、私から当行におけるダイバーシティ経営の必要性や目指すべき組織像を改めて説明したうえで、「ダイバーシティ行動宣言」として対外公表しました。

## 好調なスタートを切った 「中期経営計画」

**中澤**：平成26年度より中期経営計画「ベストバンク2020～価値創造の3年」がスタートしました。初年度の進捗状況はいかがでしたか。

**頭取**：おかげさまで利益水準・預貸金とも順調に増加しており、計画をやや上回るペースとなっています。幅広い業種で景気回復の動きがみられることから、特に本業ともいえる融資新規件数や中小企業向け貸出では、中期経営計画3ヵ年の目標をほぼ達成する水準まで積上げが進んでいます。

**中澤**：千葉銀行の平成27年3月期の決算について詳しく教えてください。

**頭取**：連結ベースでは、経常利益が前期比60億円増加の842億円、当期純利益が前期比105億円増加の570億円と、ともに過去最高益となりました。また、総貸出金は前期末比3,781億円増

加し8兆4,611億円となり、なかでも中小企業向け貸出は前期末比2,000億円増加しました。総預金も前期末比6,115億円増加し10兆7,333億円となるなど、総じて順調に推移しています。さらに、総自己資本比率は連結14.66%、単体13.84%となり、引き続き高い健全性を維持しています。

**中澤**：今後の千葉銀行の戦略について教えてください。

**頭取**：将来を見据えた投資を積極的に進めたいと考えています。昨年9月にアジア4番目の拠点となる「バンコク駐在員事務所」を開設しました。国内では、東京都心部で積極的に拠点の拡充を進めており、今年7月に「品川支店」がオープン、10月には「恵比寿法人営業所」を新設する予定です。県内でも、去年は「成田支店」「矢切支店」の新築移転や「市川支店」での大規模リニューアル工事を行いました。また、昨年8月にインターネット支店を開設しましたが、次世代の銀行業務の実現に向け、さらなる非対面チャネルの拡充や業務改革にも取り組んでいきたいと思っています。

## 「地方創生」へ 積極的な関わりを

**中澤**：今年度は全国で「地方創生」に向けた取り組みが加速していくと思われます。千葉銀行では「地方創生」にどのように関わっていくのでしょうか。

**頭取**：「地方創生」への参画については、これまで当行が行ってきた地域社会の活性化に向けたさまざまな取り組みの延長であると考えています。当行は千葉県内に160店舗のネットワークを持つほか、千葉県及び県内54市町村のうち、44の自治体で指定金融機関となっています。さらに、グループにシンクタンクを持つ強みを活かし、将来の千葉県の発展に真に役立つような計画が策定されるよう積極的に貢献していきたいと考えています。



**中澤**：具体的にどのような動きがあるのですか。

**頭取**：営業本部長を座長とする『「地方創生」関連部会議』を立ち上げ、地域情報部に「地方創生担当部長」を配置するなど行内態勢を整備したほか、自治体へは、地域金融機関に期待される支援分野やサポート体制をまとめた『「地方創生」サポートプログラム』を提案しています。既に、千葉市のプレミアム付き商品券の一部で当行のデビットカードを活用したスキームが採用されるなど、自治体との連携施策も生まれています。この他、自治体や各種機関と地域経済活性化に向けた連携を進めています。

## お客さまに 選ばれる銀行へ

**中澤**：近年の金融機関を取り巻く環境の変化はめまぐるしいものがあると思いますが、千葉銀行はこれからどのように進んでいくのでしょうか。

**頭取**：私が銀行経営で大事にしていることの一つに、地域の発展を第一に考える「お客さま第一主義」があります。地域の発展なくして当行の発展はありません。地域のお客さまに向け、グループをあげて次世代の金融サービスや新たな価値を創造し、これを提供し続けてまいります。そのためこの中期経営計画ではグループ連携の強化

を強く打ち出しています。今年に入り、新たに「銀行本体でのリース媒介業務の取扱い」や、「ちばぎんアセットマネジメント初の公募投資信託商品の取扱い」を始めました。

**中澤**：次世代の金融サービスや新たな価値とはどのようなものでしょうか。

**頭取**：一例として、ABL(債権・動産担保融資)や「ちばぎん知財活用融資」などを活用し、取引先の成長や経営改善につなげる提案を行うなど、企業の事業性評価への取組みを強化してまいります。単に資金需要に対応するだけでなく、お取引先の売上を上げる、コストを減らすという提案にもしっかり取り組んでいきます。これからもチャレンジ精神を忘れず、攻めの姿勢を貫き、大競争時代のなかでもお客さまに選んでいただける「リテール・ベストバンク」グループを目指していきます。

**中澤**：千葉銀行の力で、これから私の故郷である千葉県がもっと活性化し、さらに元気になるよう期待しています。

**頭取**：ありがとうございます。これからもグループの全役職員が地域社会の持続的な成長に貢献していくよう全力を尽くしてまいります。

